

## 早稲田大学 教育学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	全体に難化した。また正誤判定問題の形式に煩瑣なものが増えた。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	近現代ドイツ史	正誤判定のうえ、正しい文のみを内容から近現代ドイツの各政体にあてはめるという手間のかかる問題。hの「全権委任法」(1933年3月)がナチスの憲法というのもあまり聞きなれない表現である。記述問題は基礎的で易しい。	一部難
2	ルネサンス	(3)のメディチ家に関する問は高校レベルでは対処不能。消去法も使えない。(6)の遠近法はブルネレスキによって確立され、マサッチョ・ドナテルロによって継承された。ダ=ヴィンチが人体解剖図を残したことは本年度の国際教養学部でも出題されている。第1問同様、記述式は易しい。	一部難
3	宋と明の比較	選択問題は易しいものが目立つ。正誤判定の決め手も見つけやすく、とくに問題となることはない。(8)の一条鞭法の内容は記述でも頻出の項目。(9)の曾鞏が新法党ではなく旧法党というのはやや細かいが、宋代の知識人は王安石以外は皆旧法党と覚えていれば迷わないはず。	標準
4	アフリカ通史	記述式の空欄補充は簡単だが、記号式の一部(設問2(イ)のカネム=ボルヌ王国、設問3(1)のメロエ王国の都ナパタ)は難しい。一方で、ガーナ王国を滅ぼした王朝としてムラービト朝を答えるような基本的レベルの問もある。基礎・標準レベルの問で決して取りこぼしのないよう心がけたい。	一部難

### 〔総合コメント〕

去年はメソポタミアと中国で2／3を占め、欧米の比率が低く、現代史は中国以外全く出題されなかったが、今年は一転して近現代のヨーロッパが半数を占めた。全体として記述式問題が非常にやさしく、正誤判定問題は煩瑣であったり、極端に細かい項目を尋ねたりと点がとりにくくなっている。記述式での失点は許されない。また、今年は国際教養学部・第一文学部・人間科学部とアフリカの大問が連続して出題された。早大の各学部を続けて受験した者は美味しい思いをしたことだろう。